

# 第6学年国語科学習指導案

令和5年9月6日(水)第5校時

新宿区立戸山小学校

6年2組 29名

指導者 里吉 茅野

研究主題 言葉を豊かにし、自分の考えや思いをもち表現できる児童の育成  
～国語科指導法の充実～

1 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

教材名 「やまなし」 (光村図書 6年)

資料「イーハトーヴの夢」

## 2 単元の目標

◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

## 3 単元の評価規準

知識および技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク)	・「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	・表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。

## 4 児童観

(1) 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果を分析しての児童の実態

令和5年度の「全国学力・学習状況調査」の結果からは、知識及び技能の面で「(2)情報の扱い方に関する事項」、思考力、判断力、表現力等の面では「B書くこと」に課題が見られた。

<(2)情報の扱い方に関する事項>

問1一は、米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する問題である。この設問では、東京都の平均正答率を下回る66.0%の児童しか正解できていない。

同様の傾向がもう一問ある。問2三は、相田さんが【資料3】の情報をどのように整理していいかについて説明したものとして適切なものを選択する問題である。この設問では、東京都の平均正答率を下回る58.0%の児童しか正解できていない。

## 〈B 書くこと〉

問1二は、【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く問題である。正答率は、学年で見ると30.0%と都の平均を上回るものの、学級で見ると20.0%と都の平均を8.9%も下回っている。この設問では、「①a【川村さんの文章】のグラフから分かることを書いている」「①b【カード④】から分かることを書いている」「②問題の解決方法について【カード⑤】をもとにして書いている」「③60字以上、100字以内で書いている」という4つの条件を満たす必要があった。無解答の児童は4.0%と少ないものの、4つの条件のうち1つの条件も満たしていない解答が14.0%と非常に高く、都の平均を7.1%も上回っている。その他の児童も、①aを満たしていない児童が20.0%、①bと②を満たしていない児童が12.0%といずれも都の平均を上回っている。

以上の結果より、本校の児童は次のような課題があると考えた。

- 情報を適切に読み取ること
- 読み取った情報と情報を繋げること
- 設問で問われていることを読み取ること
- 課題について自分の考えや思いをもつこと
- 情報を基に自分の考えや思いを文章で書くこと

さらに、「全国学力・学習状況調査」と東京都の意識調査のクロス分析から、国語の正答率と下記の項目において、高い相関関係が見られた。(本学級の結果)

- 分からないことがあっても、学習を続けるようにしている。
- 学校の学習で人に負けたくない。
- テストでまちがえたときは、なぜまちがえたのかを考えている。

こうした高い相関関係のある学び方を強化することは、児童の課題を解決するための一つの有効な手だてになるであろう。

## (2) 児童の実態

本学級の児童は、学級で何かに取り組むとき、みんなで協力し、進んで助け合うことができる。一方で、学習に対する意欲は低く、「〇〇について知りたい」「〇〇ができるようになりたい」という前向きな態度で学習に臨んでいる児童は非常に少ない。

国語科では、「たずねびと」「やなせたかしーアンパンマンの勇気」「大造じいさんとガン」「帰り道」等の教材で学習してきた。その中で、表現の特徴を考えたり、人物像や作品の全体像を捉えて自分の考えをまとめたりしている。これらの学習では、自力解決が難しい児童が多かったが、学習計画を丁寧に立てたり、見本を用意したり、ペアワークやグループワークを取り入れたりすることで、「まずは自分で考えてみよう」と前向きに取り組む児童が増えてきた。

さらに、本学級には、外国にルーツがある児童が全体の約4分の1在籍している。外国にルーツがある児童は家庭内言語が日本語ではないことが多く、日本語の習得が難しい状況にある。また、日本国籍でも外国に長く暮らしていた児童や、家族に外国のルーツをもつ児童もいるため、家庭内での言語習得は非常に難しい状況であるといえる。豊かな日本語を習得させていくためには、学校生活の中の言語活動が重要である。

## 5 教材観

本教材は、「やまなし」に描かれた世界について資料「イーハトーヴの夢」を参照しながら、その表現や構成、作者の思いなどを自分なりに捉え、文章にまとめて交流することをねらいとしている。

「やまなし」は、かにの親子が「かわせみ」や「やまなし」と出会う様子を通して、死生観について考えることができる象徴的で深い思想性をもつ作品である。「五月」と「十二月」が対比的に書かれており、「五月」では、春の輝く太陽の光が差し込む水中で、「かわせみ」による命の奪い合いがめまぐるしく展開する。「十二月」では、あらゆるものが影を潜める冷たい冬の水中に「やまなし」が豊かな生命のぬくもりをもたらす。この「五月」と「十二月」の対比により、物語の全体像や賢治の理想の死を豊かに想像することができる。文章には、比喩や擬声語・擬態語（オノマトペ）など、宮沢賢治の独特の表現が駆使されていることから、「五月」と「十二月」がどのように書かれているか、表現面にも着目して捉えることができる。また、資料「イーハトーヴの夢」で賢治の生き方や理想について知ること、賢治が「やまなし」という題名に込めた思いにまで考えを巡らせ、さらに読みを深めることができる。これらのことから、物語の全体像や作者の考えを具体的に想像したり、読んで理解したことから自分の考えをまとめたりするのに適した教材であると言える。

分からないことがおもしろく、自分なりの根拠とこだわりの読みによって自由に想像して楽しむことができる。この教材は、他の学習では体験しがたいそのような楽しさを味わえるのも魅力である。

## 6 単元の位置付け

時期	学習材名	学習内容
5年	「たずねびと」	物語の全体像から考えたことを伝え合う。
	「やなせたかしーアンパンマンの 勇気」	伝記を読み、生き方を考える。
	「大造じいさんとガン」	表現の工夫や効果に着目して読む。
6年	「帰り道」	情景描写や視点などに着目して、人物像を捉える。
	「やまなし」	作品全体から、その世界観を捉える。
	「海の命」	作品について語り合い、読みを広げる。
中1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。（知(1)オ）</li> <li>・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。（思C(1)エ）</li> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。（思C(1)オ）</li> </ul>	

## 7 主題にせまるための手立て（戸山スタンダードを基準に）

〈シンプルに、どの児童も全員が同じスタートラインで単元に入り、45分みんなのできる授業〉

### ○単元計画の明確化

最初に「初発の感想」を書かせるところから単元に入り、児童の感想をもとに単元（学習）計画を作る。児童の「問い」をできるだけ単元（学習）計画に組み込めるようにする。初発の感想では、「疑問に思ったこと」「くわしく知りたいこと」「今までに聞いたことがない言葉」など、どのようなことを書くとよいか観点を与え、どの児童も感想を書くことができるようにする。中には、難しくてよく分からないという児童もいるが、「分からなかった」という感想も大切にしていきたい。そして、児童の感想を短冊に書かせ、「場面ごとの読み取り」「表現」「不思議な言葉」「作者と作品の関係」のように、分類していく。その際も授業者は児童に付けさせたい力を明確にしておき、単元（学習）計画に反映させていく。こうすることによってより主体的に単元（学習）計画が立てられると考えた。

### ○話し合い活動の充実

「自分の考えや思いをもち表現できる」ようにするためには、自分の考えを友達に説明する中で自分の考えの良さに気が付いたり、友達の考えを知る中で自分の考えをさらによいものにしようと考えたりすることが必要である。また、話し合い活動を取り入れることは、自力解決が難しい児童が同じスタートラインで学習に臨めるきっかけにもなる。意図的な3、4人組を作り、話し合いをさせることで、より深い読みができると考えた。

### ○読みを深めるための工夫

「自分の考えや思いをもち表現できる」ようにするためには、物語の具体的なイメージができることが必要である。本来、作品に描かれた世界を、表現や構成から捉えられることが望ましいが、本教材ではそれが難しい児童も多いだろうと想像できる。そのため、ある児童がイメージした情景を共有したり、教師が複数の絵や写真を提示したりする。考えを固定化させないように様々な種類のものを用意したい。また、本単元では第1時に、「やまなし」をじっくり読む時間を設けている。範読の後、すぐに初発の感想を書くのではなく、個人でじっくり読みを深める時間を設けた。それにより、児童がより「やまなし」の世界に入り込むことができるのではないかと考えた。

### ○毎時間の振り返り

毎時間「振り返り」の時間をつくる。次の学習につなげられるようにするために、学習状況を自覚できるような振り返りにする。めあてに沿った振り返りになるように、振り返りの視点を示し、自分がどの程度めあてを達成できたのか、◎○△×の4つのうち1つだけを選び自己分析できるようにする。自己肯定感が低く、○や△を選択する児童が多いが、教師の声掛けや、ノートコメントでできていることを称賛することにより、国語科の学習への意欲向上に努めたいと考えた。

### ○辞書引き学習や読書活動の充実

物語を読み、分からない言葉や表現を辞書で調べる活動を取り入れる。全国学力・学習状況調査と都の意識調査のクロス分析から、自らすすんで言葉の意味を調べたり、理解しようとしていたりしている児童ほど無回答率が低かったり、正答率が高かったりする傾向にあるとわかった。普段から辞書の早引きゲームや漢字しりとり等、辞書を通して言葉と親しむ時間を多く取り入れることで、児童の言葉がより豊かになるのではないかと考えた。

## 6 学習指導計画（全10時間 本時2時間目）

時	○学習活動	指導上の留意点	◆評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を捉える。</li> <li>○単元扉を読み、題名などからどのような物語かを想像する。</li> <li>○「やまなし」の範読を聞く。</li> <li>○感想や自分の考えをノートに書く。</li> <li>○分からない言葉や表現を調べながらじっくり読む。</li> <li>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に宮沢賢治作品を用意しておき、児童が興味をもちやすい環境を作っておく。</li> <li>・不思議だと思ったこと、気になること、聞いたことない表現等について書き出せるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆表現や構成等に注目して、作品世界を捉えることに粘り強く取り組もうとしている。 （発言・記述）【主】</li> </ul>
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を捉える。</li> <li>○感想を交流し合う。</li> <li>○短冊に自分の感想を書き、ホワイトボードに貼る。</li> <li>○短冊のグループ分けをする。（全体）</li> <li>○単元の学習課題を確かめ、学習計画を立てる。（全体）</li> <li>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の初発の感想を基に学習計画を立てることを意識する。</li> <li>・物語文の学習では、どのような学習の進め方をしたのか考えさせる。</li> <li>・文章だけでは想像することが難しい児童のために、絵や写真を提示する。考えを固定化させないように様々な種類のものを用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆物語の全体像を具体的に想像して、学習計画を立てている。 （発言・記述）【思・判・表】</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を捉える。</li> <li>○「イーハトーヴの夢」を教師が範読し、宮沢賢治の生き方や考え方が伝わる出来事をまとめる。</li> <li>○宮沢賢治の言動から、賢治がどのような人間なのかを考えグループで交流する。ミニホワイトボードと付箋を活用して考える。</li> <li>○まとめたことを学級全体で交流する。</li> <li>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と想像を分けて考え、年表にまとめさせる。</li> <li>・電子黒板でワークシートを映し、宮沢賢治の生き方や考え方がわかるように書き出していく。（年表としてまとめる。）→ノートに貼るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 （発言・記述）【思・判・表】</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を捉える。</li> <li>○「やまなし」を読み、作者の独特な言葉や表現を見付ける。その中で自分にとって気になる文や心に残る言葉を書き抜き、表現の良さを考える。</li> <li>○グループ内で紹介し、表現のよさを感じた部分を伝え合う。</li> <li>○着目した表現が同じ児童の発表を関連付けて情景を想像し、学級全体で共有する。 ※特に情景を想像できる場面を選び、その場面のイメージを出し合う。</li> <li>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線を引いた教科書を参考にして、作者の独特な言葉や表現を探そうとする。</li> <li>・全員が発言できるように班長が司会となって、順番に発言し、その後意見の交流を行うことを伝える。</li> <li>・グループ毎に、心に残る表現を短冊に書き出す。</li> <li>・全体発表の際は、「五月」「十二月」の場面を分けて板書する。</li> <li>・ホワイトボードに短冊を貼り出し、共有しやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（記述・発言）【思・判・表】</li> </ul>

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を捉える。</li> <li>○「五月」の場面を読みながらすてきな表現や言葉に線や印を付け、内容を確認める。</li> <li>○「五月」で読み取ったことをイメージ図に描き出す。</li> <li>○登場人物や出てくるものを確認める。</li> <li>○登場人物の言動や出来事を叙述に基づいて書き出す。川底を描いた図を用意し、「五月」の場面を絵で表す。</li> <li>○各児童がまとめた「五月」の様子を児童同士で見比べて交流し、内容を確認する。</li> <li>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品冒頭の「幻灯」という言葉を確認め、作品の構成を捉えられるようにする。</li> <li>・それぞれの場面を表すためのワークシートを用意する。→ノートに貼るようにする。</li> </ul>	<p>◆「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 【思・判・表】</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を捉える。</li> <li>○「十二月」の場面を読みながらすてきな表現や言葉に線や印を付け、内容を確認める。</li> <li>○「十二月」で読み取ったことをイメージ図に描き出す。</li> <li>○登場人物や出てくるものを確認める。</li> <li>○登場人物の言動や出来事を叙述に基づいて書き出す。</li> <li>○川底を描いた図を用意し、「十二月」の場面を絵で表す。</li> <li>○各児童がまとめた「十二月」の様子を児童同士で見比べて交流し、内容を確認する。</li> <li>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色、形、位置関係、音などに着目することで、「十二月」との対比をしやすくする。</li> <li>・それぞれの場面を表すためのワークシートを用意する。→ノートに貼るようにする。</li> </ul>	<p>◆「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 【思・判・表】</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を捉える。</li> <li>○第5時と第6時で学習した「五月」と「十二月」の様子を振り返る。</li> <li>○「五月」と「十二月」の場面を比較する。</li> <li>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対になる言葉に着目し、対比させる。</li> <li>・初発の感想で抱いた問いについて自分なりの答えを考えさせる。</li> </ul>	<p>◆比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (記述・発言) 【知・技】</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を捉える。</li> <li>○作者がなぜ、「やまなし」という題名にしたのか考える。</li> <li>○前時までにまとめたノートを活用して、宮沢賢治が作品に込めた思いを考え文章にまとめる。</li> <li>○書いた文章を読み直し、推敲する。</li> <li>○本時を振り返り、次時への</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮沢賢治の年表を掲示し作者の境遇も考えられるようにする。</li> <li>・作品に込めた思いを考える際に、題名、構成、表現や言葉などに注目して考えるとよいことを伝える。</li> <li>・「初め・中・終わり」の文章構成の例示を用意しておき、作文が苦手な児</li> </ul>	<p>◆「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (記述・発言) 【思・判・表】</p>

	見通しをもつ。	<p>童がいつでも確認できるようにしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作者の考えや思いを想像することで、今までになかったような視点から作品を味わうことができることを伝える。</li> </ul>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を捉える。</li> <li>○ 学習で使ったノートを読み返したり、作品を読み返したりして、自分が感じた作品の魅力を紹介文としてまとめる。</li> <li>○ 話し合った内容を発表する。</li> <li>○ それぞれの考えや思いを発表し合い、クラス全体で考えを共有する。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての児童が取り組みやすいよう魅力を伝えるための紹介文の書き出しやつなぎ部分を定型文として提示する。</li> <li>• どの部分を読んで、どう感じたのかを伝えるように声掛けする。</li> <li>• 友達の考えをメモしてもよいことを声掛けする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (記述・発言) <b>【思・判・表】</b></li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を捉える。</li> <li>○ 前時までのノートを読み返し、学習の振り返りをする。</li> <li>○ これからの「読むこと」の学習や日常の読書生活に活かさせそうなこと考える。</li> <li>○ 「この本、読もう」を参考に、読書を広げていくことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習計画に加えて、「たいせつ/いかそう」を読んで身に付けた力を確認する。</li> <li>• 作者の背景に着目して物語を読むと、作品世界を深く捉えることに繋がると伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。 (記述・発言) <b>【主】</b></li> </ul>

## 7 本時の指導（2／10時間目）

### （1） 本時のねらい

- ・初発の感想から学習計画を立て、学習の見通しをもつことができる。

### （2） 本時の展開

学習活動	◎指導上の留意点	◆評価（方法）
1 学習の流れを確かめる。  2 前時までの学習の振り返りをする。  3 本時の課題を確認する。	◎本時の流れをミニホワイトボードに書いておき、掲示する。  ◎文章だけでは想像することが難しい児童のために、絵や写真を提示する。考えを固定化させないように様々な種類のものを用意する。	
みんなの疑問が解決できるような学習計画を立てよう。		
4 ノートに書いた初発の感想を読み合う。（グループ）  5 短冊に自分の感想を書き、ホワイトボードに貼る。  6 短冊を分類する。  7 学習計画を立てる。	◎初めは話しやすい雰囲気を作るために自由なグループで話し合いをさせ、次に、意図的な3、4人グループで話し合いをさせる。  ◎自分で書くことが難しい児童は、教員が集めてヒントを与える。 ◎早く貼ることができた児童は、もう1枚書く、書けていない子に教える等ができるように声を掛ける。自然と学び合えるようにする。	
6 自席に戻り、振り返りを書く。  7 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	◎振り返りの視点を示し、自分がどの程度めあてを達成できたのか理解できるようにする。  ◎次時では、「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について知るということを伝える。	◆物語の全体像を具体的に想像して、学習計画を立てている。 （発言・記述） <b>【思・判・表】</b>



(3) 板書計画

p.103~  
やまなし  
(資料)イーハトーヴの夢

みんなの疑問を解決できるような  
学習計画を立てよう。

○振り返り

- ・○○についてもっと詳しく知りたい。
- ・○○の学習を頑張りたい。

○題名、全体で分からないこと

短冊

○五月と十二月を比べる。

短冊

○十二月の場面

短冊

○五月の場面

短冊

○不思議な言葉

短冊

○解決済み

短冊

ミニホワイトボードで掲示する。

学習の流れ

- 一 前回の学習を振り返る。
- 二 めあてを確かめる。
- 三 グループで確かめる。
- 四 自分で考える。
- 四 みんなで考える。
- 五 今日の学習を振り返る。
- 六 次の学習のことを知る。

電子黒板に映す。

										日時	学習計画
十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	時間	
										計画	
										振り返り	

<視点①>

- ・児童の初発の感想から学習計画を立てるために、読むことに時間をかけたり、短冊を使用したりしたことは効果的であったか。

<視点②>

- ・感想を交流し合うことは、自力解決が難しい児童が同じスタートラインで学習に臨めるきっかけになったか。